

平成29年度 自己評価及び学校関係者評価書【1学期・年間】

玖珠町立〔北山田小〕学校

1 本年度の教育目標

目を輝かせて学びあう 心豊かで たくましい子どもの育成

2 本年度の重点目標

- 活用力（説明力・記述力）の育成
- 体力の向上と運動の日常化
- 基本的生活習慣の徹底（廊下歩行とトイレのスリッパ揃えの徹底）

3 評価結果

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価指標	達成状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価		
【学習指導部】 活用力の育成	○全国・県・町学力調査（期末テスト）の活用問題の正答率が目標値を上回る。	学校	○記述力・説明力を高める取組をする。	○学期末、国語・算数の活用力を測る調査を行い、授業改善に役立てる。	・活用問題の正答率 ・県学力調査 ・全国学力調査	・調査実施学年数（全学年） 平均正答率（国語 85.72%・算数 65.5%） ・5年学力調査の記述問題の正答率は、国語（+6.4%）・算数（+19.5%）理科（+7.2%）と、すべて県平均を上回った。 ・全国学力調査のB問題の正答率は、国語（+5.5%）算数（+1.1%）ともに全国平均を上回った。	3	・調査結果の分析を行い、未定着問題についてはステップアップ学習で復習に取り組んだ。 ・県学力調査の結果から、課題が明らかになった読解力の強化策を作成した。2学期から取り組む予定にしている。	全員のほうが「とてもよく取り組んでいる」の評価。理由として、 ・子どもが「単元を貫く言語活動」に興味をもって取り組んでいる。 ・「短作文タイム」等の組織的な取組で力が付いている。 ・自分の意見を言えることは社会に出ても大事。難しいが、大切なことに取り組んでいる。 ・たくさん本を読んでいる。	
			○「単元を貫く言語活動」による国語科授業を推進する。	○「単元を貫く言語活動」の教師見本を作成するとともに、児童作品を掲示する（学期に1単元以上）。	・教職員自己評価	・実施学年数（全学年）。4学年は、2単元以上で実施できた。 ・児童の国語授業への意欲の向上と児童作品に記述力の高まりが見られた。				3
	○児童が自分の考えを説明する授業を、50%以上にする	家庭	○活用問題の分析による授業の改善を行う。	○各種学力調査（実施後）や市販テストの活用問題（1学期末）の分析を行い、授業改善と学習の定着に役立てる。	・教職員自己評価	・町確認テストは実施後未定着事項を指導。全国及び県調査は夏季休業中に全員で問題を解き、授業改善につなげた。また、学期末市販テストにより活用問題の定着度を調査し、指導できた。	3	・音読力が不十分な児童に、放課後の個別指導を継続するとともに保護者との連携をさらに進める。		＜要望＞ ・いつ、どの場面でも自分の考えで発言できる力・ものおじしない心を、継続して育ててほしい。
			○担任と連携して、音読力を高める取組を行う。【PTA 研修部】	○音読を聞き、音読カードに評価をする。また、取組状況を調査する。	・「家庭での音読」の実施状況調査	・1週間の内、親子で取り組めた割合＝平均90.2%、「この期間はしっかり聞き評価することで、子どもの意欲も高くなった」等、肯定的な感想が多数を占めた。	3			
	地域	○コーディネーターと連携して地域人材の活用を図る。	○地域教材などの学習のため、年間2～3回程度、地域の先生を招いたり地域へ出かけたりするなど積極的に活用する。	・地域の方の学校訪問状況	・地域学習を課程案通り実施できた。	3				

【特活指導部】 体力の向上と運動の日常化	○全国体力・運動能力調査の各種目で全国平均を上回った児童の割合を以下のように設定する。 ・握力・上体起こし・立ち幅跳び70%以上 ・長座体前屈90%以上 ・反復横跳び80%以上 ・20m シャトルラン・50m走・ソフトボール投げ60%以上	学校	○体育の月目標を設定してその達成を図る。*1校1実践	○4月＝握力、5月＝短距離走、6月＝ボール投げ、7月＝体力名人の達成をめざして体育集会を行う。	・体育集会実施数 ・体力テスト結果	・体育集会の実施＝毎週（運動会期間を除き） ・全国平均を達成した割合93%（昨年度92%） ・全国平均を上回った児童の割合【握力】70%【上体起こし】70%【立ち幅跳び】70%【長座体前屈】90%【反復横跳び】80%【20mシャトルラン】60%【50m走】60%	4	・年間を通して学級や個人（特に、低体力層）に着目して、改善を図る。	全員の方が「とてもよく取り組んでいる」の評価。理由として、 ・月ごとに取り組む種目を決め、その到達度を示すことで、児童が日常的・自発的に取り組んでいる。
		学校	○全校で統一した補強運動に取り組む。	○準備運動の中で、体育館では「上体起こし」と「反復横跳び」を交互に行う。運動場では、運動会まで「5分間サーキット」運動会練習より「50m走2本」を行う。	・教職員自己評価	・実施できた教員数（全員） ・補強運動種目と回数を具体的に決めることで、組織的に取り組み、成果も出せた。	3	・走力（瞬発力）は、すべての運動の基本なので、年間を通して短ダッシュや50m走等に取り組む。また、補強運動も1学期の取組を継続していく。	・データを取って、発表している。 <要望や感想> ・「ボール投げ」等は体の使い方のちょっとしたコツで伸びるので、引き続き適確な指導をお願いしたい。
		学校	○体育授業の改善を図る。	○毎時間の体育授業で、準備運動・ルール・コート・練習メニューの提示・集団行動等の工夫により、運動量をアップさせる。	・教職員自己評価	・実施できた教員数（5/6） ・体育授業改善のための実施マニュアル①～③を使って体育実技講習会を行った。	3	・互見授業や日頃の授業参観を通して、準備運動を中心に授業改善を図る。	・低体力の子どもには、負担が重くならないよう、その子なりに少しでも伸びていけるといい。
		家庭	○家庭での運動の日常化を図る。 【PTA 校外指導部】	○5/13・14、20・21 に親子運動に取り組み、結果の交流とPTAでの啓発に取り組む。	・「親子運動」の取組調査及びまとめ	・週末運動種目を限定せずに行うことで、実施率も向上した。また、年々肯定的・協力的な意見が増えている。工夫した取組の還流もできた。	4	・今後も親子運動の意義・目的を、学校便り等で知らせていく。	・子どもの頃につけた体力は、大人になっても大事なので、家族でも取り組みたい。
【生活指導部】 あいさつの徹底	○児童アンケートに置ける基本的な生活習慣の達成率を下記のように設定する。 ・「廊下歩行」90%以上 ・「トイレのスリッパ揃え」90%以上	地域	○学校と連携して、健康づくりや体力づくり行事への児童の参加を呼びかける。	○地域の健康づくりや体力づくり行事を学校に知らせたり児童への参加を呼びかけたりする。	・教職員自己評価	・体協主催の陸上記録会の参加の呼びかけがあり数名が参加した。また、2学期に実施される北山田地区体育大会の事前案内もなされた。	3		・常に目標を与え、達成できたら記憶に残るような褒め言葉を言うことで、達成感を感じ持続できる。
		学校	○落ち着いた廊下歩行の徹底を図る。	○「廊下歩き名人」を2週間ごとに調査し、児童集会で知らせることで意識の徹底を図る。	・児童アンケート ・教職員自己評価	・6月（73%）7月（75%）、休み時間運動場に出る際階段やホールで走ってしまう所に課題がある。名人を認定する評価が難しく効果的な指導になり得なかった。 ・廊下歩行の徹底に取り組んだ教職員（全員）	2	・運動場に出る場面を限定して、学級指導を徹底する。また、「ワンストップあいさつ」ができていないかという観点で名人の認定を行うようにする。	全員の方が、「とてもよく取り組んでいる」の評価。理由として、 ・スリッパ揃えの意義を確認していることは大変良い。
		学校	○トイレのスリッパ揃えの徹底を図る。	○学級や道徳の時間を活用して、スリッパ揃えの意義を確認する。また、2週間ごとに点検を行い、学級や児童集会で指導を行う。	・児童アンケート ・教職員自己評価	・6月7月ともに94%と、目標の90%を達成できた。さらに改善するためには、いつ・誰ができていないかなど、実態を詳しくとらえることが不可欠。 ・スリッパ揃えの徹底に取り組んだ教職員（全員）	3	・中休みも教職員が点検して、実態をつかみ、効果的な指導法を探っていく。	・児童の意識がとても高い。やがて社会での姿勢につながると思う。
		家庭	○親子のコミュニケーションを深める取組を推進する	○中学校の定期テストに合わせて、ノーメディア・親子読書の取組を行い、結果の交流とPTAでの啓発に取り組む。	「ノーメディア」の取組調査及びまとめ	・5月と7月の2回（2日間ずつ）実施。2日間取り組めたのは52、2%（1日は24.5%） ・家庭ごとに約束を決めたり、親子読書等コミュニケーションを深める方法を工夫したりする報告が多数あった。	4		・家でもよく守れているので。 ・学校のトイレを使うときがあるが、揃っていて気持ちがいい。 <要望や感想> ルールやマナーを守ることは、大人も反省すべき問題。学校と家庭と地域が一体となり、常に子どもたちを見守り、子どもに教え、また子どもたちから教わりながら育てていく環境づくりができればと思う。
地域	○学校と連携して「ワンストップ」挨拶運動を推進する。	○学校便りや自治会館広報誌で、学校の取組や地域の人の声を紹介することで、地域への啓発を図る。	・保護者等の方々からの聞き取り	・保護者、民生委員、コミュニティの方々の方々の声を一斉下校等で紹介することで、地域での挨拶の向上を図った。	3	・保護者、民生委員、コミュニティの方々の方々の声を、学校便り等で紹介していく。			